

DeNAが仮想発電所

再生エネ施設、ITで束ねる 異業種参入、20兆円争奪

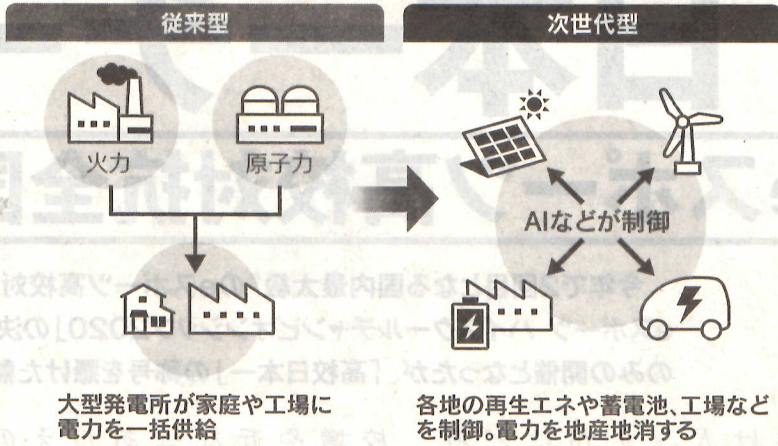
旧態依然としていた電力業界が変貌を遂げようとしている。IT(情報技術)や通信、商社などの新規プレーヤーが「仮想発電所(VPP)」、再生可能エネルギーといった分野に相次ぎ参戦。原子力発電所の海外撤退で苦境に立つ重電も、水素のような新しい電源に活路を見いだす。電力大手も入り乱れ、20兆円のエネルギー市場争奪戦が始まった。

ゲームやスポーツ事業場が立ち上がるVPPに手を掛けるディー・エヌ・エー(DENA)が電力市場のプラットフォーマーになろうと目論んでいる。こんな構想が今、水面下で動いている。これから日本で

乱戦 エネルギー市場

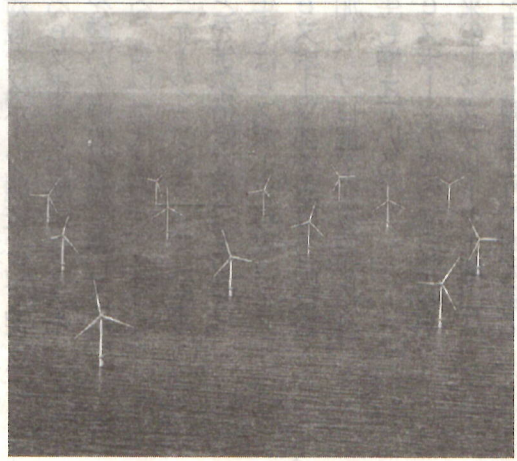
2012年に制定された固定価格買取取り制度(FIT)で日本各地に再生エネの発電施設が生じた。VPPは分散しているこれらの発電所をITの力でつなぎ、あたかも一つの大型発電所のように電力を供給する取り組み。DeNAはこの

電力供給の構図が変わる



大型発電所が家庭や工場に電力を一括供給

各地の再生エネや蓄電池、工場などを制御。電力を地産地消する



三菱商事とエネコが運営するオランダのルフタダウネン洋上風力発電所

AIで需給調整
2012年に制定された固定価格買取取り制度(FIT)で日本各地に再生エネの発電施設が生じた。VPPは分散しているこれらの発電所をITの力でつなぎ、あたかも一つの大型発電所のように電力を供給する取り組み。DeNAはこの

かかるスケジュール作成を数分で完了する。VPPを巡っては、16年度に経済産業省主導の実証実験が始まった。東京電力ホールディングス(HD)や京セラなどが参加し、ITシステムを使って需給を調整できるかなどを確かめてきた。21年度にはこの実験で成果もいかに、余剰電力を売る事業者と買い手の電力会社が参加する実際の取引市場が立ち上がる予定だ。

20兆円を超える電力市場は、発電所や送電線といった大型設備を持つ大手電力が主導権を握ってきた。次世代の電力インフラとされるVPPはいわば「ゲームチェンジャー」。既存の電力秩序を根底から揺さぶる。再生エネを使った発電事業には通信大手のNTTも自前のインフラを武器に本格参入する。全国約7300の電話局の大

半を「ミニ発電所」と見立て、蓄電池を配備し、太陽光発電なども整備。30年度までに東電HDに匹敵する規模の再生エネを開発し、家庭や企業などに供給していく。

電力市場への異業種参入の背景には再生エネ市場の急拡大がある。国際再生可能エネルギー機関(IRENA)によると、日本の再生エネの設備容量は19年に約9746万キロワットから14年から87%伸びた。梶山弘志経産相は再生エネを「他の電源に比べ上位の主力電源にする」と表明。政府は発電量に占める再生エネの割合を18年度の17%から30年には22~24%に高める目標を掲げる。

日本エネルギー経済研究所が15日に発表した世界のエネルギー展望によると、再生エネが強化される「技術進展シナリオ」では、エネルギー消費に占めるシェアが18年の14%から50年には25%に上昇する。次世代の電力市場に挑む動きは海外でも加速。英BPは石油化学事業を他社に売却し、今後は再生エネ事業に注力する。英ロイヤル・ダッチ・シェルも子会社の独ゾネ社を通じて、仮想発電所事業を欧州などで展開している。

電力供給は公共的な側面も大きい。乱戦で電力大手の収益力が低下すると「新規の投資がしにくくなり、長期的には安定した発電能力が確保できなくなる可能性がある」と(国際大学の橋川武郎教授)との指摘もある。新しい電力市場像を描くには、競争促進と安定供給のバランスへの目配りも必要だ。(落合修平)

電力大手は厳しい戦いを強いられる。16年の電力小売り全面自由化で新電力にシェアを奪われ、収益力を高める原発の再稼働もままならない。再生エネなどで新たな成長戦略を描くが、世界の有望案件は海外勢が押さえしており「我々は一歩も二歩も遅れている」(東京電力リニューアブルパワーの文挟誠一社長)。

電力大手は厳しい戦いを強いられる。16年の電力小売り全面自由化で新電力にシェアを奪われ、収益力を高める原発の再稼働もままならない。再生エネなどで新たな成長戦略を描くが、世界の有望案件は海外勢が押さえしており「我々は一歩も二歩も遅れている」(東京電力リニューアブルパワーの文挟誠一社長)。

電力市場への異業種参入の背景には再生エネ市場の急拡大がある。国際再生可能エネルギー機関(IRENA)によると、日本の再生エネの設備容量は19年に約9746万キロワットから14年から87%伸びた。梶山弘志経産相は再生エネを「他の電源に比べ上位の主力電源にする」と表明。政府は発電量に占める再生エネの割合を18年度の17%から30年には22~24%に高める目標を掲げる。

電力大手は厳しい戦いを強いられる。16年の電力小売り全面自由化で新電力にシェアを奪われ、収益力を高める原発の再稼働もままならない。再生エネなどで新たな成長戦略を描くが、世界の有望案件は海外勢が押さえしており「我々は一歩も二歩も遅れている」(東京電力リニューアブルパワーの文挟誠一社長)。

電力大手は厳しい戦いを強いられる。16年の電力小売り全面自由化で新電力にシェアを奪われ、収益力を高める原発の再稼働もままならない。再生エネなどで新たな成長戦略を描くが、世界の有望案件は海外勢が押さえしており「我々は一歩も二歩も遅れている」(東京電力リニューアブルパワーの文挟誠一社長)。

電力大手は厳しい戦いを強いられる。16年の電力小売り全面自由化で新電力にシェアを奪われ、収益力を高める原発の再稼働もままならない。再生エネなどで新たな成長戦略を描くが、世界の有望案件は海外勢が押さえしており「我々は一歩も二歩も遅れている」(東京電力リニューアブルパワーの文挟誠一社長)。